

2020年度活動報告 CJP授業 : 総合日本語 2

著者	佐野 真弓
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	10
ページ	9-9
発行年	2021-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10236/00029317

2020 年度活動報告 CJP 授業：総合日本語 2

佐野 真弓（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、初級前半の学生を対象とする週 5 コマ開講されている必修科目で、従来は対面による授業だが、2020 度春学期は、新型コロナウイルス拡大の影響で同時双方向型のオンライン授業を実施した。目標は、1) 初級前半の表現を使って、簡単な日常会話ができるようになる、2) 身の回りのことについて、ある程度まとまった内容が表現できるようになることである。主教材として、『みんなの日本語初級Ⅰ第 2 版本冊』の 20 課から 25 課、および、『みんなの日本語初級Ⅱ第 2 版本冊』の 26 課から 35 課を用いた。

2. 授業内容

本授業は、「話す」、「書く」、「聞く」、「読む」の活動で構成されている。まず、話す活動では、テキスト各課の文型の機能を生かした短い談話の練習をし、同様の状況で学生が言いたいことが表現できることを目指した。聞く活動には 2 つあり、1 つは、テキストを通して学んだ語彙や文法に注目しながら、そこで話されていることをおおまかに理解する練習である。もう一つは、学生が「先生」となり、自ら選定した音声素材（歌や映画など）を教材化し、他の学生を対象に「授業」を行った。書く活動では、教員や他の学生とのやり取りを通して推敲を重ねつつ、自分の言いたいことを文章で表現した。また、作文を書く前に、日本人学生をゲストとして招きポスター発表を行い、それをもとに、書いて表現する活動へとつなげた。読む活動では、精読的な読みと速読的な読みを行った。前者は、初級レベルの文章の内容が理解できるとともに、文章の構造や文型、語彙が文脈の中で適切に理解できることを目指し、後者は、文章の流れや大意を大つかみに捉え、読み進めることが目指された。また、コースの後半では学生が自ら読みたい本を選んで読むという多読の活動も取り入れた。

3. 成果と今後の課題

突然のオンライン化、および、2 クラスともクラス人数一人という異例の運営となった。だが、学生は、そうした状況を前向きに受け入れ、個々の活動をよりよいものにしようと努めていた。むしろ、そうした主体的な取り組みが、どちらのクラスの学生も非常によい成績を修めていることにつながっていると思われる。一方で、オンラインによるクイズや定期試験の実施の難しさ、また、通常学期よりも授業数が少なく十分な運用練習ができていないという問題も浮き彫りとなった。それらは今後の課題としたい。